

みさと天文台

豊増研究員に「小柴賞」



「みんなで受賞しました」と豊増研究員

ネット通信整備が高評価

「もつと普通に科学を」

ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊・東京大学特別栄誉教授が創設した「小柴昌俊科学教育賞」の第一回受賞者に美里町のみさと天文台研究員豊増伸治さん(37)が選ばれた。新しい発想と工夫に満ちた理科教育プログラムの開発、実践者に贈られる賞。豊増さんが県立大成高校美里分校の生徒と共に、ブロードバンドのない美里にインターネット通信網を整備した試みが高い評価を得た。豊増さんは「受賞は本當にうれしい。科学が勉強でなく、ごく普通に語られるよう地道に努力したい」と話している。

小柴賞は、ノーベル賞 始めた。同財団は、基礎 を受賞した小柴博士が設 科学の面白さが分かる教 立した財団法人「平成基 育の普及と、意欲、夢を 礎科学財団」が昨年か 持った若者の育成を掲げ

「光と風と僕たちがはこぶ、田舎のブロードバンド」とし、豊増さんが非常勤講師を務める大成高校美里分校で、二〇〇三年に三年生十九人を対象

最終選考に残ったとの報告を受けたのは一月下旬。最後は四人に絞られ、三月二十七日に東京で、小柴博士と選考委員の前

で行った選択授業「シミュレーションサイエンス」の内容を記した。光ファイバーが来ている岩出町と、美里町の山頂、分校にアンテナを立て、無線で通信を可能にした取り組みで、最後に小学校と高校のテレビ会議まで可能にした。特に苦勞したのが、アンテナの設置場所選びで、生徒たちと山の中を歩き回りポイントを探

ており、賞はその一環。生徒の創意や主体を引き出し、科学的な能力、態度を育成する小中高校の理科教育の取り組みを募り、秋山仁・東海大学教育開発研究所次長ら五人の選考委員が選んだ。豊増さんは「応募を決めたのは昨年十月の締め切り日。応募要項のフォーマットをみた時、「書ける」と思い一気に書きました」。タイトルは「光と風と僕たちがはこぶ、田舎のブロードバンド」とし、豊増さんが非常勤講師を務める大成高校美里分校で、二〇〇三年に三年生十九人を対象

最終選考に残ったとの報告を受けたのは一月下旬。最後は四人に絞られ、三月二十七日に東京で、小柴博士と選考委員の前

で行った選択授業「シミュレーションサイエンス」の内容を記した。光ファイバーが来ている岩出町と、美里町の山頂、分校にアンテナを立て、無線で通信を可能にした取り組みで、最後に小学校と高校のテレビ会議まで可能にした。特に苦勞したのが、アンテナの設置場所選びで、生徒たちと山の中を歩き回りポイントを探

「本當にうれしかった。天文台で星のことをみんなに話すのが本當に楽しいが、課題は多い。日本は先進国だが、科学がまだ特別なことと思われている面があるのが実情。スウェーデンなどは一般の人もごく普通に

小柴博士からは「苦勞もあつた。生徒たちの賑やかな活気があり、全力でやったので自信はあつた。ノーベル賞受賞者の前で偉そうなことを言いました」と豊増さん。

賞金の百万円から、昨年卒業した教え子に、ノーベルさんのおすそわけ」と手書きした封筒に一万円ずつ入れて手渡ししている。「人類に貢献した人に贈られるのがノーベル賞。そこからおすそわけを得る意味を教え子に考えてもらいたい」

豊増さんはみさと天文台に着任し今年で十年。合併や財政上の問題で、全国の天文台は厳しい状況にある。「自分自身は天文台で星のことをみんなに話すのが本當に楽しいが、課題は多い。日本は先進国だが、科学がまだ特別なことと思われている面があるのが実情。スウェーデンなどは一般の人もごく普通に

科学のことを語り、関心を持っていて。もうちょっと普通に科学を楽しめる、本當の意味でのポピュラーサイエンスを広げたいですね」と希望を膨らませている。